

## 都慢協レポート

〔発行所〕  
一般社団法人  
東京都慢性期医療協会  
〒193-0942 東京都八王子市  
桐田町583-15 永生病院内  
Tel : 042 (673) 5002  
Fax : 042 (673) 5003  
〔発行人〕 進藤 晃

## 第12回定時総会

2024年6月22日(土)リモート開催  
開催場所：大久野病院



東京都慢性期医療協会 会長  
大久野病院 理事長 進藤 晃

第12回定時総会はリモート形式で行われた。司会は事務局の尾藤氏が務めた。最初に会長で大久野病院理事長の進藤晃先生より挨拶があった。

「先日、釜山で開かれた第6回アジア慢性期医療学会に出席した。日本、中国、韓国をはじめとするアジア慢性期医療の現況と未来を議論する場で日本の現況を報告した。特に介護医療院は注目度が高く、同様の施設を作りたいという声が寄せられた」と述べた。総会の議長は、司会からの推薦となり、永生病院の鈴木恵介氏が選出された。議事録署名人には陵北病院の佐藤政一氏が指名された。2023年度、2法人が正会員として入会、4法人が賛助会員として入会したことにより、2024年度正会員数は73、賛助会員数は22となっている。当日は正会員73、出席1、署名および委任状39で過半数37を満たし、総会は成立していることが報告された。続いて4議案の説明があった。1号議案は2023年度事業報告、2号議案は2023年度決算報告、3号議案は2024年度事業計画、4号議案は2024年度予算、すべての議案が賛成多数で可決された。来年度からは毎年実施されてきた「事例発表会」の名称を「東京都慢性期医療学会」に変更することが決まった。

各部会の部会長より2023年度の活動総括と2024年度の事業計画が報告されたので、こちらに紹介する。



## 看護部会活動総括

看護部会会長 永生病院 安藝佐香江

Nurse

研修は年間2回を計画していたが、1回の実施となった。看護部会の委員からも要望の高かった虐待について、2月にWEB配信形式の研修を行うことができ、視聴人数は481名と多数で、アンケートでは「意識していない虐待があること、自分のコンディションを見つめ直すことが虐待防止につながるなど、忙しい中で見落としがちな部分の再確認ができた」「誰もが虐待の当事者になりうる意識を持つ必要がある。相談できる環境をつくること、相談する意識を持つことの大切さを再認識できた」など多くの声が寄せられた。WEB配信形式の研修は、多くの方に受講していただくことが可能である。受講時間を短時間とすることで様々な職種の方も受講しやすいとの意見が多く聞かれた。今年度はWEB配信の研修を継続しつつ、対面式の研修も開催したいと考えている。

## リハビリテーション部会活動総括

リハビリテーション部会会長  
大久野病院 田島雅祥

Reha

2023年度は新型コロナウイルス等感染症の感染状況を見ながら、基礎編は2022年度同様に配信での講習会を行い、摂食嚥下編に関しては感染症対策を行いながら、数年ぶりに対面での開催ができた。配信では大勢の方に見ただけのメリットがあったが、実技に関しては、配信では限界があり、対面での実技練習でしか伝わらないことも多くあった。実際に摂食嚥下編では参加者より、介助する側、される側が体験できたことに大きな反響があった。また、受講者が他施設の方ととても楽しそうに実技練習をしており、介助技術の質を高めるだけでなく、他施設とのつながりを持つ機会にもなるのではと考える。今後も実技に関しては、対面での実技練習を検討していきたい。

4部会合同講習会については、今回は企画を進めることができなかった。2024年度は各部会と密に連携を取り、講習会を通じて情報を発信していきたい。

## MSW部会活動総括

MSW 部会会長 陵北病院 佐藤政一

MSW

MSW部会では診療報酬改定時、各々のMSWが所属する医療機関・福祉施設等においてどのような影響があるのか、急性期、回復期、介護保険施設等と勉強会を行っており、2023年度は診療報酬改定について、マネジメント(事務)部会と合同で研修会を企画し、東京都慢性期医療協会第29回事例発表会にて特別講演を行った。

今回の診療報酬改定講演企画を来年度の研修会テーマにもつなげ、MSW部会においては医療機関・福祉施設との連携はもとより、診療報酬・病院運営等も考える研修会を企画していきたいと考えている。

今後も東京都慢性期医療協会、部会活動の説明、協力を呼びかけ、協会・部会の連携を強化し、慢性期医療に貢献できるよう努めていく。

## マネジメント(事務)部会活動総括

マネジメント(事務)部会会長  
大久野病院 村山正道

Manage

MSW部会と合同開催にて2024年3月2日に第29回事例発表会の特別講演として研修会を行った。今年度も1～2回程度開催したい。2025年問題を控えた最後のW改定ともなることから、診療報酬・介護報酬改定について、慢性期・回復期分野を中心に研修会を通じて役立つ情報を提供していきたい。またMSW部会との共通テーマとして他機関の特色や機能、状況を互いに知り合い、情報交換を行い、連携を密にする機会を設けることを今後も続けていきたい。



## リハビリテーション部会 介護技術講習会 基礎編

自立生活を支援するための介助法～寝返り・起き上がり・座位・立ち上がり・移乗～

日時:2024年6月9日(日)9:30-12:00実施 場所:社会福祉法人 高生会 明日に架ける橋

リハビリテーション部会 部会長 理学療法士 大久野病院 田島雅洋



リハビリテーション部会の介護技術講習会はコロナ禍の間、WEBによる動画配信形式で行われていたが、昨年の摂食嚥下をテーマとした講習会から対面での実技演習を再開した。今回の「移乗動作の介助」についても、4年ぶりに参集しての開催となった。講義については、事前にWEB配信動画を視聴し、当日は実技を行った。

## 事前学習動画 講義編

## 自立生活を支援するための介助法

理学療法士 セントラル病院 柳川竜一



日頃、寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗など毎日のように病棟で行われている様々な介護動作が、実はリハビリ効果につながることをご存じだろうか。病気などで寝ていることが多いと、身体機能や精神機能が低下する。その状況で本人ができる部分まで介助してしまうと残っていた機能も低下してしまう。過介助により弱体化した状態でいくらリハビリを行っても、その効果は薄れる。過介助にならないよう、できる部分は自分で行う「自立支援」を意識し、日常生活の介助を行うことで、残存機能が向上し、意欲がわき、負のスパイラルから脱け出せる。

## 事前学習動画 実技編1

## 移乗動作に着目した実践演習

小平中央リハビリテーション病院  
理学療法士 伊東・高野

ベッドから車いすへなど、移乗を正しく行うプロセスは、「立ち上がり」「方向転換」「着座」の3つに分解できる。さらに立ち上がりの動作は、「1座位→2重心移動→3離殿→4立ち上がり」の4つのプロセスからなる。動作を分解し、一つ一つのコツをつかめば、介助する側にも、される側にも無理のない体制で、その人にあった介助ができる。もし相手が大柄だったりして、一人での介助が難しい場合は、二人で行う必要がある。リハビリ職種だけでなく、看護・介護も含めたチームで話し合い、適切な方法を見つけてほしい。

## 事前学習動画 実技編2

## トランスファーボードを使ったトランスファー

城山病院 作業療法士 平石・土方



重介助の患者様の車いすへの移乗の際は、トランスファーボードを活用するとよい。まず、おしりが当たらないように

車のアームレストを上げ、足が当たらないようにフットレストを外す。その後ボードをおしりの下にトランスファーボードをしてスライドするように移乗すれば、立ち上がる必要がない。使用できないケース、リスクが高いケースもあるので、使う前にリハ職に相談してほしい。

自立支援を促す介助を実現するためには個性を大切にすることが欠かせない。一人一人の疾患、体の状況、性格や生活習慣などから総合的に判断し、残存機能を活かしていかにかにその人らしく生きる力をサポートをするかを考える必要がある。

## 介護技術講習会 当日編

▶明日に架ける橋



講習会当日は、部会長の田島氏より挨拶があった。「スポーツや音楽と同様、介護技術も実際に体を動かすことで上達する。この講習会は、事前に動画を見て学び、当日は介助をする、介助をされるを体験しながら、実践的に学べる。疑問や質問にもその場で丁寧に答えてもらえるので、ぜひ今後とも多くの方に参加してほしい」とのことだった。講習会は寝返り、起き上がり、座位、立ち上がり、移乗のそれぞれについて、講師の山下氏がデモンストレーションを行い、その後参加者同士が数人のグループにわかれて実際に行った。

まず寝返りでは引っ張るような動作はしないこと、重心を移動させていく動きに「点」ではなく「面」で手を添えることがポイントだという解説があった。また「〇〇さん、左側に寝返るので頭の向きを変えてください」など、声かけをすることができる動きはやってもらうことが大事とのことだった。起き上がりについては自力でできる人は手をつき肘に体重を乗せる。この動きをなぞるように、できない部分を介助することを心がける。お手本を参考に、実際やってみると、イメージした通りにはできなかったり、相手の状況、コンディションなどによって

気遣うポイントが異なるなど、様々な気づきがあった。

後半は、座った姿勢から立ち上がり、移乗までの解説からスタートした。立ち上がるために安定した座位が不可欠であること、お尻をベッドの前に移動したい場合は引っ張るのではなく右、左、右とお尻を交互に動かしてもらい、少しずつ自力で移動してもらうとよいとのことだった。立ち上がる際も、引っ張り上げるのではなく、まずお辞儀の姿勢になり、足を適度に引いた状態からだ立ちやすい。介助者が相手の動きに合わせて、一緒に重心を移動することが大事とのことだった。要所で心がけることで、介助者優位の介助とはならず、相手の自立支援につながることを実感できた。

途中、情報提供として賛助会員であるフランスベッド株式会社より、超低床になるリハビリ訓練台の紹介があった。安全性を確保しながら、運動療法を行えるとあって、興味深く説明をきく姿がみられた。福祉用具も状況に応じて適切に使うことが肝要だと改めて知る機会となった。

リハ部会介護技術講習会の様子

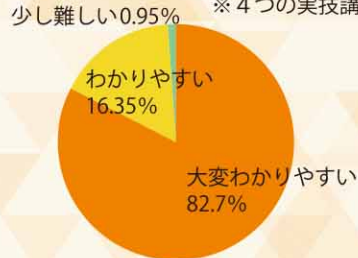


## 当日の感想

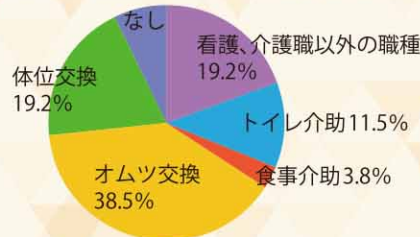
・移乗 移動含め、患者さんにも介助者側にも負担なく行う方法を知ることができて、大変勉強になりました。(看護職)・移乗動作も丁寧に教えてくださって、拘縮の患者が多いため悩んでいたところ、コツを教えてくださいまして今後の参考にしていきたいと思いました。(看護職)・動作介助が苦手だったのでこの研修に参加できてよかったです。ありがとうございました。また、機会があれば参加したいです。(リハ職)・負担の少ない介助法を知ることが出来ました。(介護職)・とても分かりやすく大事な経験が出来ました。ありがとうございました。(介護職)・普段欠かさずする動きなので、細かなところまで教えていただきとても勉強になりました。聞きやすい環境でよかったです。また機会があれば参加したいと感じました。(介護職)

## 実技講習の内容はいかがでしたか？(回答数26)

※ 4つの実技講習の平均を集計



## 日頃介助で大変だと思う動作は何ですか？(回答数26)



# 第30回 東京都慢性期医療学会 開催

日程:2025年3月1日(土) 場所:東医健保会館 (予定)

当協会では毎年1回の恒例イベントとして、「事例発表会」が行われ、多くの研究成果や臨床現場の役立つ事例が発表されてきた。今回、この会の名称を「東京都慢性期医療学会」と改め、2025年3月に第30回目を開催することとなった。

演題募集のアナウンスは準備が整い次第、ホームページにて行われる。昨年までと同様、たくさんの有意義な発

表が行われることを期待する。またこの会が今後も他会員の病院・施設の状況を知り、そこで働く医療従事者同士が交流する場としてますます活用され、ともに発展する契機となれば幸いである。

学会幹事病院は2024年に引き続き、康明会病院が務める。2026年実施の第31回、2027年実施の第32回は信愛病院が務める予定となっている。

慢性期  
TOPICS

## 高齢者や車いすを利用する方の熱中症予防

「熱中症」は、高温多湿な環境に長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。屋外だけでなく室内でも何もしていないときでも発症します。熱中症患者のおよそ半数は65歳以上の高齢者です。高齢者は暑さや水分不足に対するからだの調節機能も低下しており、また近年の酷暑や長引く残暑にも慣れていません。特に車いすを利用する方には注意してください。外出する際は、地面からの照り返しで熱を受けやすく、背中とお尻が車椅子に密着しているため、熱がこも

ります。冷却タオル、冷却シート、冷却スプレーなどのグッズを活用しましょう。また車いすを利用する方はトイレに行く回数を減らすために、水分を控える傾向があります。これにより、脱水症状になりやすく、体内の水分が不足しがちです。のどが乾いていなくても1時間ごとにコップ1杯を目安に水分補給が必要です。周囲も体調の変化に気を配り、熱中症を予防しましょう。※参照:「知っておこう!熱中症予防のために」(厚生労働省)



一般社団法人  
**東京都慢性期医療協会** 事務局  
〒193-0942 東京都八王子市栢田町583-15  
TEL. 042-673-5002 FAX. 042-673-5003

都慢協レポートのバックナンバーはホームページよりご覧いただけます。PC・スマートフォン・タブレット → 用QRコードです。http://tmik.or.jp

